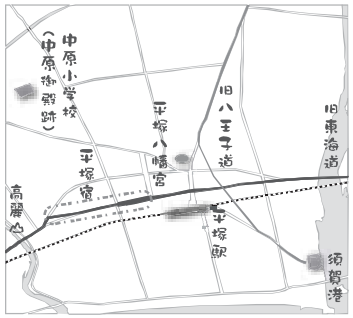
はな咲く もの語りに出会える

平塚宿

昔の平塚は・・・

平塚は、相模川を利用した物資の集散地である須賀の湊や、東海道、中原往還、八王子道が通るため交通の要所として栄えました。

徳川家康は、鷹狩りや江戸と駿府の往来のために、中原御殿を築きました。高麗山は唐・新羅連合軍に国を滅ぼされた朝鮮半島の高句麗の王族と従者の一部が渡来し、平塚の近辺では、高麗山のふもとに住み、付近の開墾に尽力したと言われています。



平塚宿

平塚宿は、東海道五十三次のうち江戸日本橋から七番目の宿場です。

街道沿いは、旅人や家来を引き連れた大名や荷物を運搬するんなどで、いつも大にぎわいでした。そのため、伝馬継立の負荷が大きくなり、それを助けるために平塚新宿が加宿されました。

町の大きさは東西に二キロ、南北二・五キロ程あり、松林に囲まれた自然豊かな場所に多くの人が住んでいました。街道沿いに約五十軒の宿が並び、酒屋やそば屋などいろいろな商売をするお店も並んでおり、家は二百十軒もありました。

見附（みつけ）

見附とは城門の見張所の意味です。宿場町の東と西の両端には必ずこれが設けられました。

傍らには掛け茶屋があり人馬の継替えが行われたばかりでなく、将軍や大名が通る時は、かなり前から告知板が立てられました。

高札場（こうさつば）

幕府の発した法令などをしるした「高札」を掲示した場所です。立札とも呼ばれ、木板に御法度（禁則）や捉なども墨書きしました。高札場は宿場内のほかに街道の追分や渡船場、関所など、旅人の目につきやすい所に置かれました。

脇本陣（わきほんじん）

公家や大名の家来などの宿泊所が脇本陣です。平塚宿で二番目に大きく、本陣の補助的な役目を担っていました。主に武士や身分の高い人が泊まっていましたが、宿泊のない時は農民や町民も泊まることができました。

門、玄関、上段の間の内の一つが欠けているのが特徴です。

旅籠（はたご）

一般庶民が宿泊や休憩として利用したのが旅籠です。天保期（一八三〇～四三）には、大旅籠二十軒、中旅籠二十九軒、小旅籠二十三軒の合計五十四の軒の旅籠がありました。

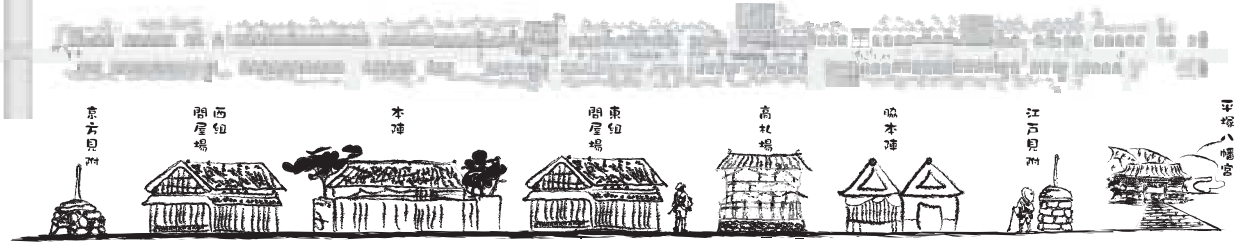
本陣には、門、玄関、上段の間が必要条件ですが、これに対して旅籠は一切これらを造ることはできませんでした。

本陣（ほんじん）

公家・大名・幕府の公用旅行者などの宿泊場所です。平塚宿の中で最も大きく、建坪は一六三坪、座敷数が二十ありました。また、本陣には、門、玄関、上段の間が必ず取り付けられました。

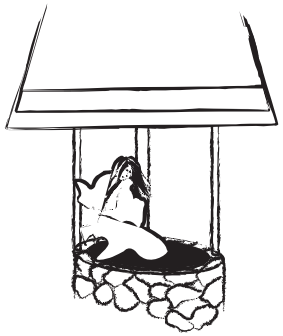
問屋場（といやば）

問屋場は、幕府の公用旅行者の荷物の運搬や馬の手配をするなど駅、役所、警察の役目を担っていました。平塚には東組問屋場と西組問屋場の二つがありました。



「番町皿屋敷」のお菊

井戸から夜な夜な聞こえる皿も数えるうらめしい声。「いちま～い、にま～い…」でおなじみの「番町皿屋敷」。大切な飯皿も割ったという濡れ衣を着せられ若くして処刑されてしまった主人公「お菊」のモデルは平塚出身。昭和二十七年に戦災復興の土地区画整理でお菊の遺骨を掘り起こし、市営共同墓地に移され、現在は立野町青雲寺の貴壁家墓地に納められています。また、最初に遺体が埋められた場所は、既谷町公園となり、「お菊塚」として残っています。



「加賀見山旧錦絵」のお初

中老の尾上はお家乗っ取りを企む局の岩藤に侮辱され、それを苦に自殺してしまう。お初は主人の仇である岩藤を見事討ち取り忠義のせとして富とされる。浄瑠璃や歌舞伎の演目で知られる「加賀見山旧錦絵」のお初は、平塚宿出身の松田たつがモデルとなっています。

松田たつのお墓は、春日神社の隣にあります墓地に顕彰碑と共に今もなお残っています。

中原御殿と松林

徳川家康が鷹狩りのために中原御殿を築き、その後江戸城などに使われることとなる黒松もこの地に植えるようになり、平塚宿の南北も隙間なく囲んでいたこの黒松の林は、中原御林と呼ばれ、厳重に保管されていました。そのため、後から設置される平塚宿は街道沿いに延びるしかなく、規模の割りに長細い宿になったと言われています。

高麗山

数多くの旅籠が並んでいた頃の夕方ともなると、客引きをする留め女たちが旅人を賑わせる光景がよく見られました。江戸から京へ急ぐ旅人の神をつかんでは、前方の高麗山を指して「あの山を越えないと大磯宿には行けないよ」と嘘を言って、旅人を引っ張り込んだそうです。実際は高麗山を越えるが、回りを歩くだけなのですが、これが、高麗山がベテン山といわれた所以です。

平塚（平塚宿）までの行き方

平塚駅まで・・・

JR東海道本線
東京駅より　約六十分
横浜駅より　約四十分
小田原駅より　約二五分

神奈川中央交通バス
「平塚駅北口行き」
本厚木駅南口より　約四十分
伊勢原駅南口より　約二五分
秦野駅より　約四十分

平塚宿まで・・・

平塚駅西口より徒歩　約五分

平塚宿 まちなみ景観協議会

私たち平塚宿まちなみ景観協議会は、平塚の地名発祥の地である旧東海道平塚宿の魅力と歴史を活かした美しいまちなみづくりに向けて、住民主体による様々な活動に取り組んでいます。

宿場出世汁

平塚宿の旅籠屋「笹尾家」には、昔から徳川家康が出世した時のお祝いの汁として、焼豆腐、蒟、そら豆、筍、大根の五品を入れた味噌汁が伝えられ、出世汁と呼ばれました。協議会では、さらに名島のツミレを加えて再現しイベント等で提供しています。

発行・・　平塚宿まちなみ景観協議会
デザイン　東海大学建築学科杉本研究室
http://pubweb.co.jp-tokai.ac.jp/sugimoto/